

長 蓮 寺 報

NO.11 (平成18. 12. 15)

立山・室堂にて

3年前より 趣味(星を見ること)が、興じて 立山のホテルや山小屋で、年に数回、宿泊されたお客様を対象にした星座解説(スターウォッチング)の講師を務めさせて頂いております。

先月、11/17も同様、ホテル立山(立山・室堂のホテル)でお話をさせて頂きました。今回はいつもと違い、大手旅行代理店が全国からお客様を集めホテルを貸し切りにしてシーズン最後のツアーとして企画したものでした。

そのツアー行程の中には、「洋風かんじき」で雪の室堂を散策したり、プロのカメラマンを講師に迎え、写真の撮り方を教えて頂くことなど。盛りだくさんの内容で、星の解説もそのなかの1つでした。

私はいつものように友人と二人で室堂まで行き、ホテルでの打ち合わせを済ませ、いつも通り午後6時に夕食に向かいました。

2人で食堂に行くと、係の方が「相席でよろしいでしょうか？」とのこと。

しばらくすると、いらしたのが、このお二方。

立山を代表する名ガイドの佐藤武彦さん(今回の室堂散策の講師)と有名山岳写真家 高橋敬市さん(写真教室講師)でした。

ホテル側としては講師は同じ卓に。と言う配慮からだったのでしょうが、私としては、お二人とも立山を代表する有名な先生方だけに、とても緊張して声も出ませんでした。その先生方の方から

「飯田さん って あなた? お坊さんなんだって・・・」と、気さくに話しかけてきてくさだり、その後も、お鮎子も出てきたこともあって色々な話に花が咲き、立山のこと・写真のこと はもちろんのこと、教育のこと・家族のことまで・・・。

気がついたら、手元の時計は午後7時半を回っておりました。

(星の解説は午後8時から)で、慌てて星のお話の用意をしました。

その時の会話の中で

「星の事をお話するには、星だけではダメ。星以外にも大自然には美しいものは沢山ある。美しいものは美しいと感じ。そういうものにも目を向ける心がないと・・・星ばかりじゃあねえ!他のものもきれいだけど、星もいいでしょ。と言わないと人は聞いてくれないよ。」とおっしゃられた事が、今でも頭に残っております。

私達の宗祖 日蓮聖人もお釈迦様が説かれた沢山の教典のすべてを何回もお読みになり理解され、その上で「法華経」こそお釈迦様の本意とされました。

やはり、広い見地から見ることの大切さを痛感致した次第です。

皆様にとって平成十九年が幸多き年になりますように。

合 掌

平成18年 年忌表

1 周忌	平成18年	1 7 回忌	平成 3年	3 7 回忌	昭和46年
3 回忌	平成17年	2 3 回忌	昭和60年	4 3 回忌	昭和40年
7 回忌	平成13年	2 7 回忌	昭和56年	4 7 回忌	昭和36年
1 3 回忌	平成 7年	2 3 回忌	昭和50年	5 0 回忌	昭和33年

長蓮寺の基礎知識Q & A

Q：仏様には何をお供えすれば良いのですか（1）

仏様をご供養する場合、最低限お供えするものが昔から決まっております。

「香」「華」「灯燭」「茶」「供膳」の5つです。

尚、この基本の五つをお供えし、それに付け加えて「おけそく」「おまんじゅう」「くだもの」などをお供えしましょう。

「香」とは



「香」とは仏教の伝来と共にインドから伝えられてきたものです。インドでは香木（焚くと良い匂いのする木）を焚くと言う習慣がありました。

一口に「香木を焚く」といっても形状は様々であり。香木を刻んで小さくしたのが、「抹香」（富山ではごみ香という）です。（お焼香の時に使う）

また、この香木を細かくして練り合わせて、棒状にしたのが、皆様よくご存じの「お線香」になるわけです。

インドという国は場所によって、夏期（丁度 梅雨時期一日本の6月頃）には気温40度、湿度70パーセント以上という高温多湿になります。こういった状況ですと、例えば、ここで仏様をご供養したいと祭壇を飾り、色々なお供え物を飾っても、周りから色々な異臭がにおってきて、素直にお参りすることなど出来ません。このような状況下で、香木を焚くという習慣がうまれました。

つまり、「周りのけがれを清めて仏様を供養する」という意味から香を焚くと言う習慣が生まれました。仏教では香を焚くことは自分自身の邪気を払い、体や心の汚れを取り除くばかりでなく、同時に他の周りの人の汚れや邪気を取り除くという功德もあるそうです。

あるお経の一節には

「一つの香炉から立ち上る香の煙は、一切の人々の過去、現在、未来をも清浄にする」と説かれております。

仏具の開眼（買ったばかりの仏具に魂を入れる）のお経の後に住職が、香の煙にその仏具をかざす光景をご覧になった方もいらっしゃると思いますが、実はこのためにする作法なのです。

また、香木を焚く（お焼香する・線香をつける）と煙が立ち上がります。この煙が「仏様や亡くなられた方々の食べ物になる」と昔からよく言われております。

上記 この2つの理由から仏教では香木を焚く事が重要視されているわけです。

● お線香について

- 線香の本数ですが、通常 一本もしくは三本 とされております。
※「一本」「三本」とも、それぞれ理由がありますが、難しい教義になるためここでの説明は割愛させていただきます。
また、地方によっては、人が亡くなって49日の間は「一途にあちらの世界においでください」という意味を込めて、1本のみ。
その後、49日より後は3本たてると言う所もあります。
- 香炉（香を焚く入れ物）の向き

三本足の場合は、奥（仏様の方）に二本、手前に一本が来るように置きます。仏様に尖ったものが向かないようにするためです。

● 焼香について

- 焼香の回数 お経にお伺いして、一番多く聞かれるのがこの事です。

法華宗の『法要のしきたり』には
「右手に香合をとり左掌にのせ香合の蓋を除いて
焼香机の上に置き拇指と示指を以って香をつまみ、
恭しく3回燻じ、香合の蓋をする。」
とあります。

しかし これは僧侶に向けたものであり、

一般の方々は
通常、お香を「つまんで、念じ、くべる」
これを3回繰り返してください。

- 何故 三回か？

色々の書物には三宝の（仏・法・僧）で3回とか。色々書かれておりますが、この冒頭にもお話し致しましたように、「香を焚く」とことには2つの意味があります。「場を清める」とことと「仏様の食べ物」です・

- 1回目 場を清める
- 2回目 お釈迦様はじめ仏様方に 煙を召し上がって頂く。
- 3回目 当家のご先祖様に

と言う意味でお焼香は3回と申し上げております。

※今回「香」についてお話し致しました。当初、5つすべてお話しするつもりでしたが、なかなか、文章がまとまらず、以下の「華」「灯燭」「茶」「供膳」は、次回以降にお話し致したいと思っております。





◎当山 開創450年記念事業—納骨堂建立 (途中経過報告)

先日来よりの懸案となっております

開創450年記念事業の当山内墓地の整備と納骨堂の建立では、皆様方に多大なご協力・ご援助をいただき誠にありがとうございます。

お陰様で、既に檀信徒の約8割の方々から御賛助いただき、寄付合計額も目標額の6割となっております。

引き続き、御協力の程、

何卒 よろしくお願い申し上げます。

5,480,000円 (55件)

2006.12.15現在



↑完成イメージ

◎ 節分会 (豆まき) 平成19年1月27日 (土) 午前11時～

本年から年頭祈願会に代え、節分会 (豆まき) をお日待ちに併せて開催致しました。本年は初回にかかわらず50人以上の多くの方々にご参詣頂き、大変盛大に務めさせて頂くことが出来ました。

来年の節分も是非 みなさま、家族お誘い合わせの上お越し下さいたくさんのご参詣を心待ちにしております。

- ・豆まき役は本来、年男・女、厄年の方が対象ですが、当寺では希望者全員に豆をまいていただく予定です。
- ・豆以外にもいろいろ蒔く予定です。(何がまかれるかは当日のお楽しみ！)
- ・抽選会等も計画しております

尚、お札・御祈願を希望される方は、同封致しました別紙の申込用紙にご記入の上お申し込み下さい。

◎平成十八年 七日会・写経会のお知らせ

- 毎月7日午後2時よりお経の練習会をひらいております。参加費無料になっておりますので気軽にお越し下さい。
- 次回の写経会は3月7日 (水) 午後1時を予定いたしております。

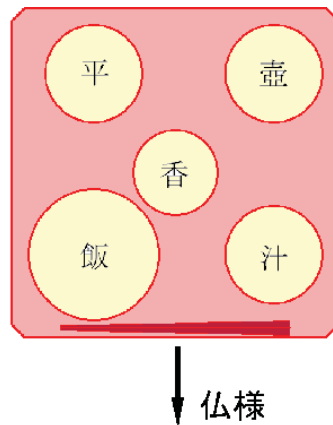
(5) 香 (こう) 足の付いた高い器 漬物を供える

※お供えするときの注意

・供える方向 一仏様の方に箸が来るようにしてください。

私達は、仏さまや先祖様に「おいしい料理作ったよ！召し上がっ
てくだ
さい！」という気持ちでお供えをするわけですから
、仏様 が箸を持ちやすい様にしてく
ださい。

・もし、紋が付いている時は紋を手前の方向に向け
ます。



霊前に香典をお供えするのに、仏さまに向けて、置いてまいりましたが、それで良かったのでしょうか？

A1

あなたは、仏さまにお供えをするのだから、仏さまに向けてお供えになったと思いますが、その気持ちはわかりますが、結論から言うと、それは間違いです。

私達は、仏さまや先祖様に「おいしい団子作ったよ！食べて頂戴！」という気持ちでお供えをするわけですが、仏さまは「うん、有り難う、おいしかったよ！」でも「こんなにおいしい団子なんだから、またみんなで食べてよ！」という仏さまの慈悲心から、仏さま自身がまた我々の方に差し出して下さった訳です。(でも実際に仏さまが、物を動かすことは出来ないものですから) 私達は始めから、こちらつまり私達の方に向けたままお供えするわけです。

お供え物が回り向く、つまり仏教の教えであります、廻向(えこう)を作法で表現したものなのです。よく法事や命日に、お寺さんに読経をして頂くとき、「廻向をしてもらう」と言っておりますが、その教え・意味はおなじでございます。追善廻向の法要を自ら行うことにより、そのご縁により功德は仏の側から、自分や参拝者にもたらされることになるのです。

このように功德は自ら他に、他から自分に廻りめぐるものなのです。

1、器

残りのは仏の慈悲をもたらすために

「灯り」は仏の光明にあやかるために

「供膳」とは

「霊供膳」のことで、仏様にお供えするお膳のことです。富山では「供養膳」という呼び方を致します。人が亡りお葬式が終わると、それまで生前中にお使いになられていたお茶碗や箸などはすべて処分します。その後のお食事はこの「供養膳」をお供えすることになっております。

ご法事の際、お参りが終わった後、参詣した私達は「おとき」と称して、おいしいお食事をいただきますが、本来は、他のお供物と同様、仏様のおさがりとしてお食事をいただくのが、本来の趣旨です。残念ながら、富山ではこの「供養膳」が軽視され、初七日の時など葬儀屋さんに申し上げないとお供え頂けないときがあります。法要の時には必ず、先に仏様にお食事を召し上がって頂いてからにしたいものです。特に「祥月命日」や「ご法事」などには必ずお供えください。

また、なかには、さんまの塩焼き等お供えされている方がいますが、仏様の食事は、精進料理でお願い致します。

○「供養膳」のお供えの仕方

この「供養膳」はお膳と5つの器で構成されております。この器にはお供えするものが、決められております。

- (1) 飯 (めし)
一番大きな深い器 ご飯を盛る
- (2) 汁 (しる)
汁物を供える 味噌汁、おすまし
- (3) 平 (ひら)
浅い器 煮物、等を供える
- (4) 壺 (つぼ)
深い器 あえ物、酢の物等を供える

